

教科 理科 (小・中)

	指導の重点	努力事項
指導計画の作成	○ 観察、実験に基づく、主体的・探究的な活動を重視した指導計画に改善する。	○ 子どもや学校、地域の実態を踏まえ、身近な自然の事物や現象を対象とした直接体験及びものづくりなどの科学的な体験を充実させる。また、子どもが主体的に観察、実験や課題解決のための探究活動に取り組む時間を十分に確保した指導計画を作成する。 ○ 小・中・高等学校の学習内容の系統性を踏まえた指導計画を作成する。
指導の工夫	○ 問題解決の能力・科学的に探究する能力の基礎と態度を育て、科学的な見方や考え方を育成する指導法の工夫と改善に努める。	◎ 主体的に問題を見だし、課題を追究する力を育成するために、自然に対する興味・関心や知的好奇心、目的意識を高める工夫をする。 ○ 問題解決の能力や態度、分析して解釈する能力の育成を図るため、各内容の特質に応じて観察、実験等の工夫をする。 ○ 自然の事物・現象についての実感を伴った理解を図り、科学的な見方や考え方を育成するために、観察、実験の結果を整理・考察したり、科学的な概念を用いて表現したりする言語活動の充実を図る。
評価の充実	○ よさや可能性を積極的に見だし、伸ばす評価を工夫する。	◎ 子ども一人一人の進歩の状況などを積極的に評価し、学習意欲を高める指導に生かす。 ○ ノートやレポート、ワークシートなど、授業後に教師が確認しながら行う評価を累積するとともに、授業中に見取りによる評価を適切に組み合わせる。

※は参考文献等

問題解決的な学習を中軸とした授業の充実のために

授業づくりのポイント3 (「【参考資料】確かな学力の向上のために」P9)
必然性があり意欲が高まる学習課題の設定と解決への見通しをもたせる工夫

◎ **主体的に問題を見だし、課題を追究する力を育成するために、自然に対する興味・関心や知的好奇心、目的意識を高める工夫をする。**

【子ども主体の理科学習チェック8項目】

- ① 子どもが主体となって問題を見だしているか。
- ② 問題に正対した予想や仮説の設定をしているか。
- ③ 予想や仮説を検証できそうな観察、実験の計画を立てているか。
- ④ 目的に応じて適切に観察、実験を行っているか。
- ⑤ 観察、実験の結果を適切に処理しているか。
- ⑥ 観察、実験の結果と予想や仮説を照らし合わせて考察し、自分の考えを表現しているか。
- ⑦ 問題解決を通して、科学的な概念を構築し知識や技能を獲得しているか。
- ⑧ 獲得した知識や技能を活用し、考察しているか。また、獲得した知識や技能を実際の自然や日常生活の中で適用しているか。

〈体験活動と言語活動が織りなす理科授業の流れ〉



※ 理科学習指導プランP2～4 (平成26年3月 福島県教育委員会)

授業づくりのポイント6 (「【参考資料】確かな学力の向上のために」P15)
学習内容の定着を図る「振り返る活動」の充実

◎ **子ども一人一人の進歩の状況などを積極的に評価し、学習意欲を高める指導に生かす。**

- ・ 観察や実験から得られた知識を日常生活に適用し、新しい問題を見いだす場面を設定する。
- ・ 「〇〇日記」などの記録が「単なる感想」でなく「どのように学んだか」を振り返った内容になるよう継続的に指導し、自分自身の成長を実感できるようにする。
- ・ レポートや記録から望ましい学びの姿を積極的に見取り、その後の指導と評価に反映させる。